共生・協働のむらづくりステップアップ事例集

～共生・協働の農村（むら）づくり運動の取組紹介～

（vol. 5）

平成２６年３月

鹿児島県農政部農村振興課

はじめに

県では、平成１９年度から、農村が地域住民にとってゆとりとやすらぎの空間となるとともに、都市住民にとっても魅力ある場となるよう「人と自然と地域が支え合う　みんなで創る農村社会」を基本目標として、集落の推進体制の見直し等による「農村集落の再生」、都市･農村交流などを通じた「新たなむらづくりの形成」、耕作放棄地の発生防止や地域資源の活用等による「むらづくりの維持･発展」の3つの取組を柱に「共生・協働の農村(むら)づくり運動」を推進しているところです。

このような中，県内の農村集落では、地域住民の自主的な話し合いを基本に、ＮＰＯ法人や大学などの多様な主体と連携したむらづくりや、高齢・小規模農家も参画した地域営農の仕組みづくりなど、地域の創意工夫により、様々なむらづくり活動が展開されています。

本事例集は、県内各地域におけるむらづくり活動を紹介することで、共生・協働の農村(むら)づくり運動の普及・啓発を図ることをねらいとしており、この事例集が市町村はもとより、関係地域の方々に広く活用され、農村集落等の活性化が図られることを期待しています。

最後に、本事例集を取りまとめるに当たり、関係市町村及び各農村集落の関係者、地域おこし団体等に御協力いただいたことに御礼申し上げます。

平成２６年３月
鹿児島県農政部農村振興課長
伊藤　真吾

目　次

1　共生・協働の農村（むら）づくり運動の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

2　位置図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

3　共生・協働のむらづくり活性化事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
○平成 24・25 年度実施地区
ア　こいやま八重（やえ）の会（鹿児島市）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
イ　吉利（よしとし）地区公民館（日置市）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
ウ　神殿（こうどん）校区村づくり委員会（南九州市）　・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３
エ　神子（こうし）区むらづくり委員会（さつま町）　・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
オ　佳例川（かれいがわ）地区自治公民館（霧島市）　・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１
カ　岸良（きしら）地域づくり協議会（肝付町）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２５
キ　上西（かみにし）校区（西之表市）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２９

4　地域営農の仕組みづくり実践事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３４
○平成 24・25 年度実施地区
ア　大里（おおさと）営農推進協議会（いちき串木野市）　・・・・・・・・・・・・・・・　３５
イ　中間上（なかまかみ）集落営農推進委員会（南さつま市）　・・・・・・・・・・・・・　３７
ウ　別野（べつの）農作業受託組合（さつま町）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３９
エ　長谷（ながたに）地区営農運営委員会（湧水町）　・・・・・・・・・・・・・・・・・　４１
オ　川上（かわかみ）校区むらづくり推進委員会（肝付町）　・・・・・・・・・・・・・・　４３
カ　浜津脇（はまつわき）集落農地管理組合（中種子町）　・・・・・・・・・・・・・・・　４５
キ　嘉渡（かど）営農生産グループ（龍郷町）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４７

5　平成 24 年度各種表彰地区
(1) 全国農林水産祭　むらづくり部門
＜日本農林漁業振興会会長賞＞
現和（げんな）校区（西之表市）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４９
(2) 鹿児島県共生・協働の農村（むら）づくり運動表彰　農村集落部門
＜鹿児島県知事賞＞
ア　新西方（しんにしかた）むらづくり推進協議会（指宿市）　・・・・・・・・・・・・・・　５１
イ　石井（いしい）地区むらづくり委員会（伊佐市）　・・・・・・・・・・・・・・・・・　５３

（参考）
・　むらづくり応援隊を紹介します！　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５５
・　共生・協働のむらづくり活性化事業，地域営農の仕組みづくり実践事業の紹介・　５６

１ 共生・協働の農村づくり運動の概要

（１）運動名

共生・協働の農村（むら）づくり運動

（２）運動の目標

人と自然と地域が支え合う　みんなで創る農村社会

（　農村が農業者などの地域住民にとって，ゆとりとやすらぎを実感できる生活空間となるとともに，都市住民に対して魅力あるライフスタイルを提供する場となるよう，すべての人々が，多彩で豊かな自然や伝統文化などを再認識し，世代，性別，地域，価値観などの違いを超え，共に支え合い，共に築くむらづくり　）

（３）運動の推進方向

ア　農村集落の再生

農村集落におけるむらづくりの推進体制の見直しを行い，それぞれの地域の実態に応じたむらの目標や将来像等を示した「むらのかたち」の作成やそれに基づく実践活動等を通して，農村集落内の住民・組織間等の連携により農村集落の再生を図る。

※　農村集落とは，継続的な農業生産活動及びむらづくり活動が行われている集落

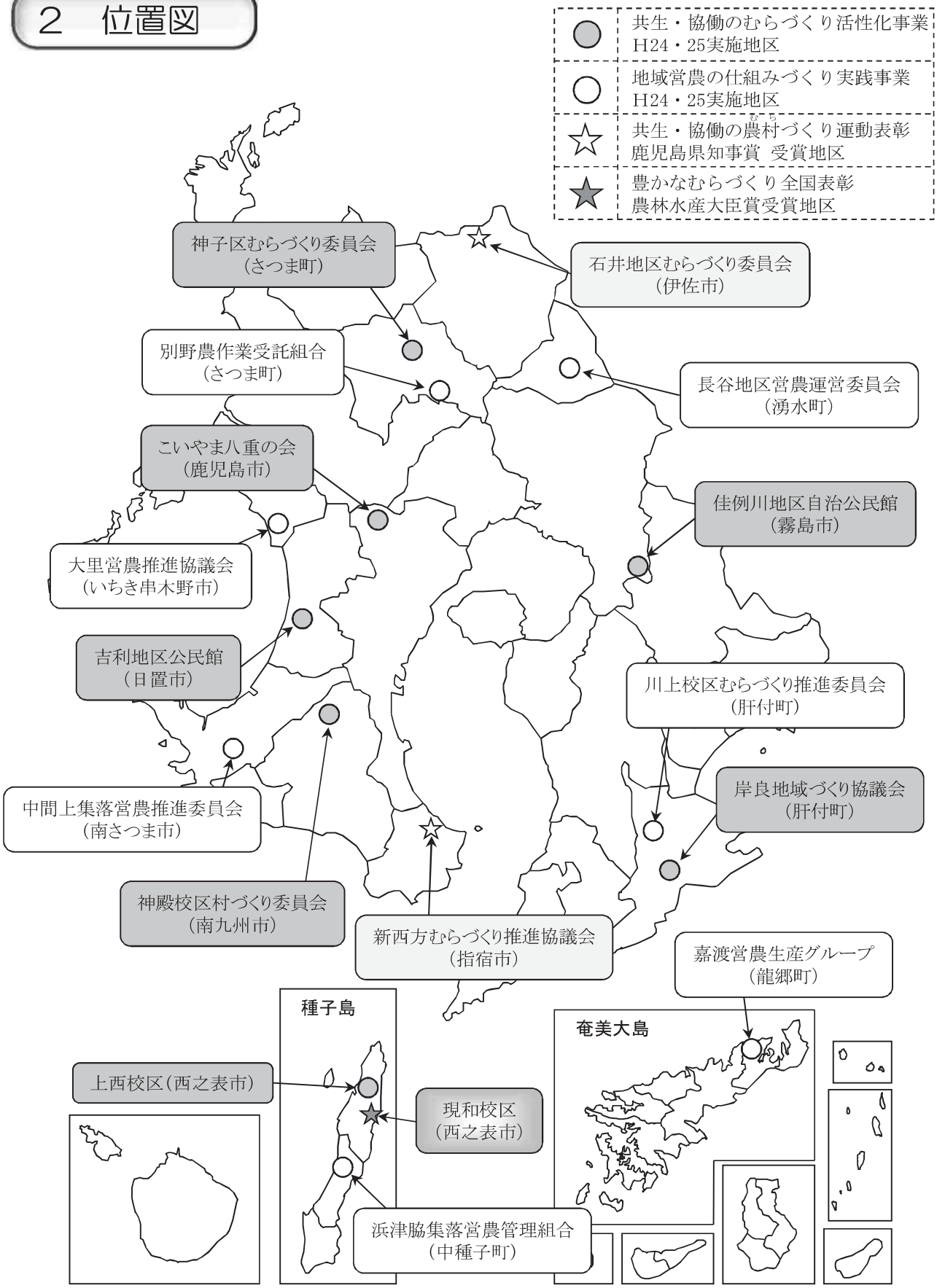
イ　新たなむらづくりの形成

農村集落の活性化のため，ＮＰＯ法人等や都市住民など地域外の活力の導入や，グリーン・ツーリズム等を通じた都市と農村の交流活動，Ｕ・Ｉ・Ｊターン者の定住促進など，集落外の多様な主体との連携により新たなむらづくりの形成を図る。

ウ　むらづくりの維持・発展

水土里サークル活動を活用した農村環境の保全や，中山間地域等直接支払制度を活用した耕作放棄地の防止，地域の歴史・文化など地域資源の発掘・活用等によりむらづくりの維持・発展を図る。

2　位置図


共生・協働のむらづくり活性化事業
H24・25実施地区
地域営農の仕組みづくり実践事業
H24・25実施地区
共生・協働の農村づくり運動表彰
鹿児島県知事賞　受賞地区
豊かなむらづくり全国表彰
農林水産大臣賞受賞地区
神子区むらづくり委員会
（さつま町）
石井地区むらづくり委員会
（伊佐市）
別野農作業受託組合
（さつま町）
長谷地区営農運営委員会
（湧水町）
こいやま八重の会
（鹿児島市）
佳例川地区自治公民館
（霧島市）
大里営農推進協議会
（いちき串木野市）
吉利地区公民館
（日置市）
川上校区むらづくり推進委員会
（肝付町）
中間上集落営農推進委員会
（南さつま市）
岸良地域づくり協議会
（肝付町）
神殿校区村づくり委員会
（南九州市）
新西方むらづくり推進協議会
（指宿市）
嘉渡営農生産グループ
（龍郷町）
種子島
奄美大島
上西校区（西之表市）
現和校区
（西之表市）
浜津脇集落営農管理組合
（中種子町）

３ 共生・協働のむらづくり活性化事業

『地域資源を生かした交流イベントの開催』

事業実施主体:こいやま八重(やえ)の会(鹿児島市)
協働団体:NPO 法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会

現状及び課題

八重山地区は、鹿児島市中心部から北西に約 23 キロ、鹿児島市郡山町の国道 328 号線沿いの入来峠にあり、豊かな自然に囲まれた中山間地域である。

この地区は，桜島や錦江湾を一望できる絶好のロケーションを有し、空気の澄んだ日は、開聞岳や金峰山なども望めることから、ハイキングコースとしても人気がある。また、入来峠の八重山公園側約 2.5km 先には、甲突川の源流で平成 20 年 6 月に「平成の名水百選」の認定を受けた甲突池が清らかな水をたたえている。

周辺の農地は、山の斜面に等高線に沿って、階段のように棚田が広がっており、棚田での田植え体験やそば打ち体験、収穫した農産物を味わう収穫祭など、都市部と農村住民との交流が活発に行われている。

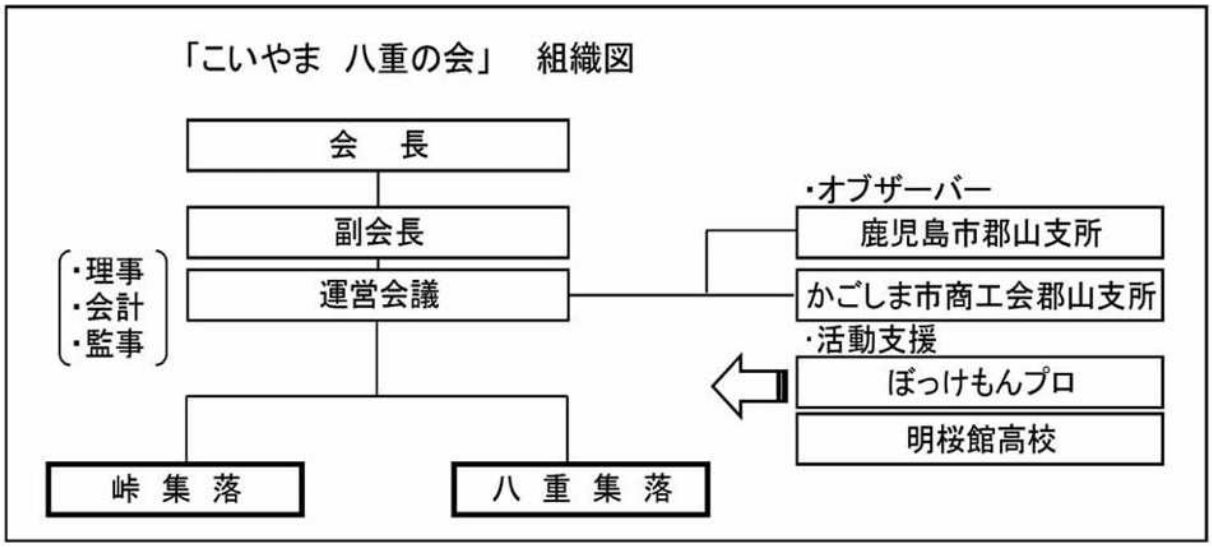
一方で、過疎・高齢化は進み、65 歳以上の住民が 4 割を超えるとともに、集落内には、空き家も見られるようになった。

また、農業の担い手不足が深刻な状況となっており、棚田の存続も危ぶまれている。

活動内容

八重山地区の歴史・文化・景観を学びながら楽しめる集落散策マップの作成、各種交流イベントの開催、地域の民話に登場する「天

八重の天ガラもんウォーキング



ガラもん」を地域のゆるキャラとして、薩摩剣士隼人とも連携した地区の活性化を目標に、次のような活動に取り組んだ。

・「八重の天ガラもんウォーキング」の開催
・おもてなし研修会「八重を盛り上げよう」の開催
・天ガラもんストーリーを織り込んだ集落散策マップ作成
・地域外へのお披露目イベントの実施
・「八重山音楽祭」の開催
・地域を知るための「郡山の景観と地質の講座」の開催

おもてなし研修会（高校生と連携）

共生・協働の状況

NPO 法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会と連携し、「集落散策マップ」の制作や地域内外へのお披露目イベントの実施、各種おもてなし研修会を実施した。

地域のゆるキャラ「天ガラもん」と薩摩剣士隼人が連携し、一緒にテレビ出演やイベントに参加するなど、地域のＰＲ活動に取り組んだ。

また、明桜館高校の生徒たちが、ボランティアとして、「ウォーキング大会」や「八重山音楽祭」に参加するとともに、「おじゃこい隊」を編成し、イベントに参加するなど地域活動を大いに盛りあげた。

平成 25 年度から「八重山音楽祭」は、郡山町商工会と連携し、「こいやま天ガラもん祭り」として規模を拡大して催した。

また、ふるさとを知るため、鹿児島大学の大木教授を招いて、郡山の景観と地質についての勉強会（講座）を開催した。

その他、郡山小学校や地元企業などの協力を得ながら、地域一体となって地区の活性化に取り組んでいる。

郡山の景観と地質の講座

事業の成果

NPO 法人をはじめ、高校生や小学生、商工会など、地域が一体となって、ウォーキング大会や音楽祭等の交流イベントを定期的に開催することができ、地域外からも多くの参加があり、交流を図ることができた。

「かごしま探検の会」や「薩摩剣士隼人」の監督、明桜館高校商業科の生徒さん達と協働で集落散策マップなどを作成することで、地域資源の再発見や地域活性化に繋がる新たな活動に取り組むことができた。

また、地域の民話に登場する「天ガラもん」をキャラクター化し、交流イベントを開催したり、各種イベントを盛り上げるため、明桜館高校の生徒さん達が、地域を応援する「おじゃこい隊」を結成して、歌やダンス・衣装を作り、地域のゆるキャラ「天ガラもん」と

共に、地域内外のイベントへも参加し、八重地区(郡山)のＰＲを図ることができた。

天ガラもん・おじゃこい隊のイベント出演

今後の課題と展望

地区は高齢化の進んだ地区であり、さらなる少子高齢化が懸念される中、イベント開催による、副次的効果として「地域の文化・生活環境の向上」や「地域経済の活性化」を期待している。

今後も、「ウォーキング大会」や「音楽祭」などのイベントは、集客に繋がる工夫を凝らしながら、継続して実施していく。

地区のゆるキャラ「天ガラもん」は、薩摩剣士隼人のテレビ番組に出演予定であり、グッズ展開も企画中である。

このような取組を継続することで、八重地区を地域内外に広くＰＲし、八重山の素晴らしい景観等を多くの人々に知ってもらうとともに、地域住民も新たな発見や、自然、文化・歴史等を再認識することができ、次世代への承継にも繋がっていくものと考えている。

また、地元物産館での農産物の加工・販売や運営等についても、今後、地域で話し合いながら検討を進めていくこととしている。

リーダーの感想

リーダー　こいやま八重の会
会長　末吉 勇　氏

『活動を通じて、八重地区を訪れる人々も徐々に増加してきていると感じました。

当会は、八重山観光館「ふらっとほーむ」を拠点に、今後も地域住民への活動説明や参加呼びかけを積極的に行い、地域住民と一緒に、地域の活性化や様々な課題に取り組んでいきます。

資金面も課題ですが、補助金に頼らない新しい財源確保に向けての取り組み（地域食材の販売[しいたけ・たけのこ他]・観光案内・自動販売機活用・グッズ販売・寄付金等）を進め、当会会員、地域の人々、明桜館高校生まで、「みんなで知恵を出す」地域作りを目指していきます。』

地　区　情　報

構成集落（２集落）
　峠集落、八重集落
人口構成
（１）総人口　89 人
　　(65 歳以上の割合　43.6%)
（２）総世帯数　39 世帯
　　(うち農家戸数　34 戸)
耕地面積：15.23 ヘクタール
主要作物：米、野菜、さつまいも

問い合わせ先

鹿児島市農政総務課
　電話番号：０９９（２１６）１３３４
鹿児島地域振興局農林水産部農政普及課
　電話番号：０９９（８０５）７２７１

ＮＰＯ法人まちづくり
地域フォーラム・かごしま探検の会から

むらづくりに携わった感想

・もともと発信力のある地域であり、棚田等をフィールドにした都市農村交流も盛んな地域であった。
・「農的な環境」に関心のない方々にも、同地域に目を向けていただくきっかけとしてのイベントも、工夫をして実施している。ハード整備も充実している。
・イベントをきっかけとして、常時地域に人が足を運べる手法として、散策マップを制作
・地域のキャラクター「天ガラもん」が、ご当地人気キャラクター「薩摩剣士隼人」のテレビ番組に出演することなどによって、これまでにないＰＲとなり新たな地域イメージの定着と知名度アップが期待される。今後も人々が集うような提案を継続していきたい。

ＮＰＯ法人
まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会
代表理事　東川 隆太郎

おひろめイベントの様子

協働団体の概要

代表者名/東川 隆太郎
所在地/鹿児島市名山町３番９号
連絡先/099-227-5343
ホームページ/
http://www.tankennokai.com
設立年/2001 年
設立趣旨/
「地理･歴史･自然をまなび、まちづくりを考える」をキーワードに、調査研究および学習･啓発の場を継続的に提供する。
また、そのことによって鹿児島で育まれた文化を通して地域が豊かになることを活動の主たる目的としている。
団体のPR/
見逃されたものの価値を大切にし、よりよい鹿児島のために知恵を出す活動を継続的に行っている。

地域資源調査の様子

『地域の農産物を使った加工品づくり』

事業実施主体：吉利（よしとし）地区公民館（日置市）
協働団体：NPO法人食育研究会らく楽料理教室

現状及び課題

吉利地区は、日置市日吉町の南部に位置し、北区、中区、南区の３自治会で構成される中山間地域の集落である。

北部の水田地帯では、ブロックローテーションによる転作として、地区内の生産組織キタカタ営農生産組合が大豆の生産に取り組み、南部では地元酒造メーカー用の甘藷の作付けが盛んに行われている。

また、山沿いにある圃場では、区画整理と畑かんの整備計画があり、地域で話し合いが行われている。

平成12年に農産物直売所「吉利物産店」が整備され、地区の出荷者で組合を設立し運営を行っているが、時期により出荷される品目数及び出荷量にばらつきが多く、また、出荷者にも偏りが見られるため、地区内の多くの農家に出荷してもらえる仕組みづくりや、出荷者の高齢化、後継者不足が直売所運営の課題となっている。

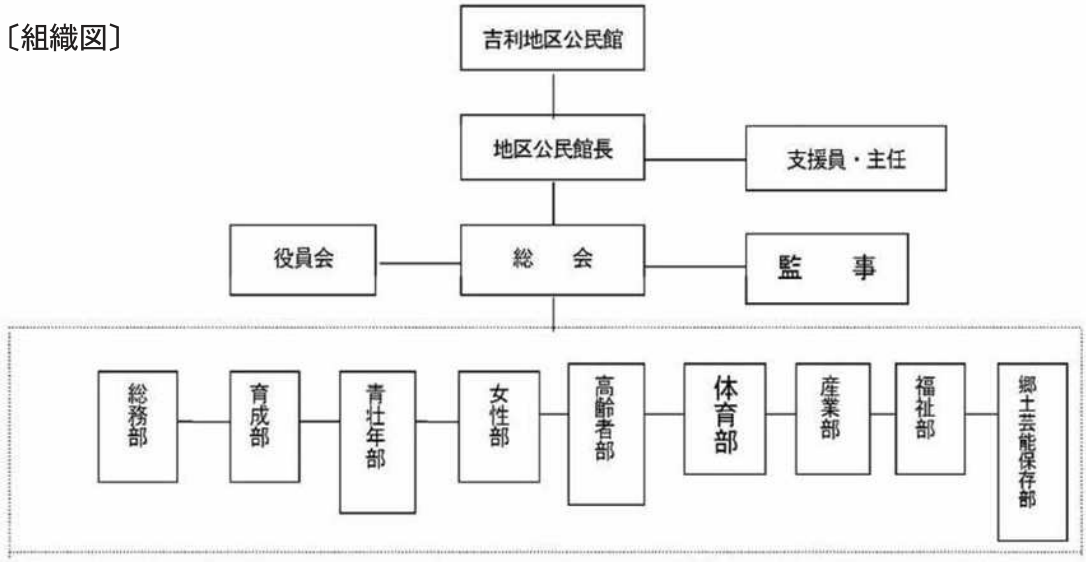
活動内容

当地区は、日吉地域に400年以上前から伝わる「せっぺとべ」で奉納する田植踊りや太鼓踊りなどの伝統芸能の継承に自治会一丸となって取り組んだ。

また、生活研究グループ（加工グループ）は、定期的に季節の農産物などを活用した加工品づくりに取り組み、なかでも地元産大豆を活用した豆腐・味噌・なべスープは直売所の主力商品として好評を得ているが、なべス

せっぺとべ

〔組織図〕



ープは、寒い時期の商品のため、夏場でも販売できる新たな農産物加工品を地域の女性グループを中心に検討した。

郷土料理についてアンケートを実施し、要望が多かった煮しめとあくまきの伝承講座や若い世代を対象に、地産地消への意識を高めるための食育講座を開催した。

その他、直売所出荷者を対象とした野菜づくりの講習会を開催した。

共生・協働の状況

地区公民館で、NPO 法人食育研究会らく楽料理教室と協働した食育講演会や地区内の高齢者などを講師とした郷土料理伝承講座を開催することで、地区住民同士、特に高齢者と若い世代との交流を図ることができた。

新たな特産品開発を行うため、様々なアイデアを募っていくつかの試作品をつくり、検討した結果、豆乳プリンを新商品として製品化することに決定し、さらなる開発や研究を進め、完成後は、地元直売所で販売することとしている。

地区では、企業と協働した食育事業「親子で大豆を育てよう」に取り組み、親子 20 組 40 名の参加者と種まきから枝豆や大豆の収穫、大豆を使った料理教室を実施し、体験内容の説明やふくれ菓子の提供を行うなど、参加者を地域ぐるみで受け入れ、鹿児島市や遠くは宮崎県からの参加者等との交流を図った。

食育事業「親子で大豆を育てよう」

また、日置地域内を巡る地産地消バスツアーとも連携して、吉利物産店でイベントを開催し、餅つきやご汁の振る舞いによるおもてなしや、地産地消の取組みとしての地元産の農産物販売などを通じて都市住民との交流を図ることができた。

吉利物産店感謝祭

事 業 の 成 果

キタカタ営農生産組合が生産した大豆などを使用して、加工グループが豆腐、なべスープなどの農産物加工品を吉利物産店で販売するといった地産地消の流れを更に強く確立することができた。

また、新しい試みとして、豆乳プリンの製品化が実現できたことや地区ではまだ作付けされていなかった青長ダイコン等の栽培にも取り組むことができた。

都市住民との交流では、吉利物産店でのイベント開催や企業と協働した食育事業「大豆を育てよう」の開催など、幅広い世代の方々と交流が図れた。

料理教室で、地域産大豆を使用した大豆ハンバーグ、マーボ大豆豆腐の制作や食育講座での交流を通じて、地元資源の大切さを意識づけすることができた。

歴史と伝統のある地域で、昔から行われている「せっぺとべ」、田植え踊り、太鼓踊りなどの伝統芸能や行事を大切に継承していきな

がら、都市住民との交流活動など、新たな取り組みにも挑戦できた。

他地域の特色あるむらづくりや地域づくりを視察することで、これからの吉利地区のむらづくりについて、活発に意見交換することができた。

今回は、自治会単位の取組みではなく、吉利地区公民館としての取組を行ったことで、広く地区住民の意識高揚を図ることができた。

開発した豆乳プリン

今後の課題と展望

吉利地区では、直売所の運営や加工品の開発など、これまでも多くの活動を行ってきた。

今後はますます高齢化が進んでいくと考えられることから、同じ課題を抱える他の地域に積極的に取り組んでもらえるようなモデルとなれる地域づくりを目指していきたい。

また、圃場整備と畑かん事業の計画があることから、地区の活性化に向け、営農推進会議などの話し合い活動も行われているが、今後は、地区の農地を守る農業後継者が不足することも予想されることから、農地の集積を推進しながら、新規就農者を地区外から呼び込むことも検討していく必要がある。

加工グループの開発した加工品を地区外にもアピールしながら６次産業化を目指すとともに、吉利物産店における都市住民との交流事業を継続するとともに、食育事業についても受入体制を整備して、ＮＰＯ法人や各種団体等、多様な主体との共生・協働による地域づくりの幅広い取組を図っていきたい。

リーダーの感想

リーダー　吉利地区公民館
館長　春成 道夫　氏

『共生・協働のむらづくり活性化事業に取り組んだことで、高齢者と若い世代との交流や地産地消にこだわった商品ができるなど地域一体となった活動に取り組めました。

地区住民へ野菜の種を配布し、産業祭で披露し、好評を得ました。今後も、６次産業化を目指し、地域住民一体となり、食育事業や共生・協働によるむらづくりに取り組んで生きたいみたい。』

地　区　情　報

構成集落（３集落）
　北区、中区、南区
人口構成
（１）総人口　1,139 人
　　(65 歳以上の割合　39.2%)
（２）総世帯数　492　戸
　　(うち農家戸数　128 戸)
耕地面積：175 ヘクタール
主要作物
　水稲、甘藷、肉用牛、酪農、大豆

問い合わせ先

日置市役所日吉支所産業建設課
電話番号：０９９（２９２）２１１４
鹿児島地域振興局農林水産部農政普及課
電話番号：０９９（８０５）７４５５

ＮＰＯ法人
食育研究会らく楽料理教室から

むらづくりに携わった感想

大豆を使って、大豆ハンバーグやマーボー大豆豆腐、豆乳プリンなどを、子供達と一緒に作りました。

子供達だけでなく、ご父兄の方々も、大豆に対する関心が高まり、地産地消への気持ちが高まったと感じる事ができました。

講演で、食の伝承、食文化の継承をお話しさせて頂きましたが、これから、祭りなどを通じて、このような講演などの機会を増やせれば良いと思います。

ＮＰＯ法人食育研究会らく楽料理教室
理事長　椰木 春幸

味の伝承講座の様子

協働団体の概要

代表者名/椰木 春幸
所在地/鹿児島県姶良市加治木町木田2344-4
連絡先/0995-73-3812
ホームページ/http://rakuraku-cs.jp
設立年/平成18年
設立趣旨/
乳幼児から高齢者まで幅広い方々を対象に、昔から受け継がれてきた大切な鹿児島の食文化を継承していくための各種研修や鹿児島で採れた旬の食材を活用した料理教室等を通じて“地産地消”など食育に関する普及・啓発の活動を行うことにより、多くの県民の方々が健康で、長生きのできる社会づくりを推進し、もって社会全体の福祉の増進に寄与することを目的としている。
団体のPR/
食育に関連した、料理教室、食育講演、食を通しての地域活性化などの活動を行っております。

『集落ぐるみで取り組む農村環境保全活動』

事業実施主体：神殿（こうどん）校区村づくり委員会（南九州市）
協働団体：NPO法人エコ・リンク・アソシエーション

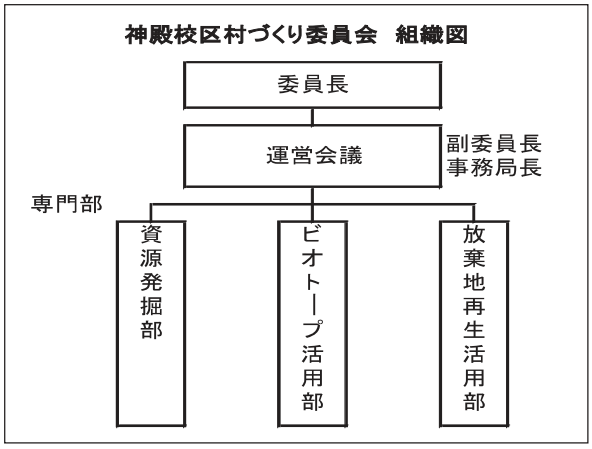
現状及び課題

神殿地区は、南九州市川辺町の北部に位置し、４つの集落からなる農村集落である。

平成 23 年４月に地域内の耕作放棄地を解消する目的で、神殿農地活用組合が設立され、農地利用の取組が始まった。しかし、組織運営に係る継続的な活動において新たな課題も出てきている。

また、校区の新たな憩いの場として整備された親水公園（ビオトープ）もエリアが広く、雑草が生い茂りつつあり、新たな活用を含めて、管理等の検討が必要となってきた。

また、神殿集落内の文化財や、かくれ金山の跡、７月に食する神殿みかん等、地域に眠る資源の発掘や、その活用を図る必要もでてきている。



活動内容

取り組んだ主な活動は次のとおりである。

① 集落内に整備された親水公園に生息するホタルやメダカの育成・放流やホタルの夕べコンサートなどを通して、景観保全への意識を高め、親水公園の持続的な維持管理のための仕組づくり。

② 神殿農地活用組合との連携による耕作放棄地の解消。

③ 文化財や史跡、農産物など地域に眠る資源の発掘や活用。

④ 子どもから高齢者まで地域一体となって既存のイベントや新たな取組等へ参画することによる集落内の連帯感の促進と地域の活性化。

地域資源マップの作成風景

共生・協働の状況

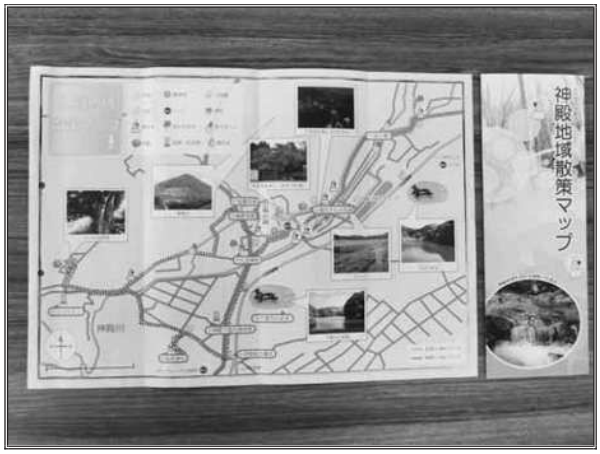
神殿地区は、高齢化率 51.4％と旧川辺町内でも高い地域となっているが、平成 23 年４月の農地活用組合設立を機に遊休農地の再生活用や地域環境の美化作業等地域づくりへの機運が高まり、現在、校区村づくり委員会と関係機関が話し合いを重ねながら地域活性化に向けた検討を進めている。

地域内に南薩縦貫道が開通し、インターチェンジができたこと、用水路がビオトープとして整備されたこと、農地活用組合が設立されたことなど地域を取り巻く環境も大きく変

化し、地域内でも活性化に向けた話し合い活動が活発にされるようになってきている。

鹿児島大学「農援隊」との保全活動

このようなことから、地域外のＮＰＯ法人と連携して、文化財や史跡、農産物など地域に眠る資源の発掘や地域資源を活用したイベントにも取り組むなどＮＰＯ法人のノウハウを活用しながら協働でむらづくり活動に取り組んだ。



地域資源を発掘して作成したマップ

事業の成果

地域の懸案事項であった耕作放棄地の問題について、県、市などの行政機関やＮＰＯ法人を交えながら、毎月の定例会で話し合いを重ねたことで、解消に向けた様々なアイデアや意見が出てきた。

ビオトープの活用については、地域住民向けに講演会を開催するとともに、地域内の児童や鹿児島大学「農援隊」の支援を受けて草取りなどの保全活動を実施したことで、地域住民の意識も高まってきた。

その一環として、地域内の農地全てを対象に１筆調査を実施し、その状況を図面化して現状を把握。その後、耕作放棄地再生活用部が中心となって地域内の荒廃地 35 アールを対象に、夏はヒマワリ、秋にコスモス、春には菜の花といった季節に合わせた花々を植えたことで、一面に広がるきれいな花畑となり、地域住民にも大変喜ばれた。

景観作物としてヒマワリを植栽

地域資源の発掘（神殿あるもの探し）と地域資源散策マップを作成したことで、地域内にあるすばらしい資源を再認識できた。

また、地域資源マップの看板を神殿区公民館に設置したほか、各史跡への案内板も設置したことで、地域外の方々が訪れても分かるようになった。

今後の課題と展望

耕作放棄地対策として、景観作物であるヒマワリなどの植栽に取り組んできたが、解消した面積は、一部であることから、今後も継続して解消に取り組んでいきたい。

今回植えたヒマワリの種子を採取して、来

年度に解消する予定の農地に活用するほか、集落内の全世帯に配布して、花いっぱい活動につなげていくことで、地域ぐるみの取組としていく予定である。

ビオトープは、幅２ｍ、長さ 300ｍと範囲が広いことから、メダカやホタルがいつまでも生息できるよう定期的な清掃活動（除草作業等）を継続していくこととしている。

また、法面の防草対策として、被覆植物であるヒメイワダレソウの植栽などに取り組んできており、除草作業の軽減を図るため、今後も植栽範囲を広げていくこととしている。

また、地域住民の高齢化により保全活動に取り組める人数の減少も懸念されることから、行政や地域外からの協力も得ながら引き続きむらづくり活動に取り組んでいきたい。

被覆植物ヒメイワダレソウの植え付け

リーダーの感想

リーダー　神殿校区むらづくり委員会
区長　東　昇　氏

『現在、神殿校区の区長として、区全体の活性化に向け昼夜を問わず走り回っています。

区民の半分以上は高齢者であり、いかに地域を盛り上げていくか、５年後、10 年後を見据えて話し合い活動を続けながら、地域のリーダーとしてその大役を担っています。

以前から地域の懸案事項であった耕作放棄地の問題や、地域資源の発掘、ビオトープの持続的な維持管理など地域活性化に向けた活動の方向性が見いだされ、今後も継続して取り組んでいきたい。』

地　区　情　報

構成集落（４集落）
　軸屋、神殿上、神殿中服良、下里
人口構成
（１）総人口　311 人
　　(65 歳以上の割合　51.4%)
（２）総世帯数　168 戸
　　（うち農家戸数　43 戸)
耕地面積：41.5 ヘクタール
主要作物
　水稲、原料用甘藷、温州ミカン、大豆

問い合わせ先

南九州市川辺支所農林水産課
　電話番号：０９９３（５６）１１１１（代）
南薩地域振興局農林水産部農政普及課
　電話番号：０９９３（５２）１３４２

ＮＰＯ法人エコ・リンク・アソシエーションから

むらづくりに携わった感想

農業集落では、農地や農道等の維持管理など相互扶助といったコミュニティ機能が低下している。そのような中、「神殿校区村づくり委員会」の共生・協働のむらづくり活性化事業に参加して、貴重な体験ができた。

まず、この地域の核は何か。地域として一番自慢できるものは何か。地域として売り出したいものは何か。などの原点に戻り、みんなで地域を見直す作業を実施し、浮かび上がった地域資源を生かす作業に移った。こうした、ひとつの取組に多くの人が参加していく方法が見えてくると、むらづくりは楽しくなる。

今後の集落への期待は、住民がアイデアを出し、住む人も訪れる人も楽しめる活動を行うことが大切である。豊かな自然とそこに暮らす人々とのふれあいを通じて、訪れた人は癒しと安らぎを感じ、地域はそこから生まれた交流から元気をもらえる体験型交流を推進して、ふるさと創生の活路を求め、地域の再生に努めてほしい。

ＮＰＯ法人エコ・リンク・アソシエーション
代表理事　下津 公一朗

協働団体の概要

代表者名/下津 公一郎
所在地/南さつま市加世田本町５３－６
連絡先/0993-53-7270
ホームページ/http://eco-link.jp
設立年/2000 年 12 月
設立趣旨/

多様なライフスタイル、複雑化した経済、様々な社会問題を抱える多元的社会における共生・協働という目標に向かって、地域社会の課題やニーズをつかみ、新たな社会還元的ビジネスや次世代の担い手の育成に取り組んでいる。環境共生を軸に農山漁村の活性化、環境保全活動、福祉課題の解決、ツーリズムによるまちづくり、自然塾による人材育成などを実施している。

団体のPR/

地域の魅力を見つめなおし、包括的なマネージメント、環境の保全・再生に努め、農家民泊型修学旅行の受入れによる、様々な経済的、人間的な活性化に努めている。

地域をプロデュースし、都市部の人々に体験の場を提供し、地域づくりにつなげていきたい。

地域資源発掘の取り組みについて説明

県外からの修学旅行生の受け入れ